浅倉透、最初から妙に俺に懐いていたので
手を出したのが1ヶ月前

今ではすっかりHにも慣れ
透の方から誘ってくるまでになった

はッ♥

ふー…♥

ふー…♥

ふー…♥

はッ♥

ふー…♥

ふー…♥

透「プロデューサーの匂い…♡」

P「教えた通りにおねだりできて
偉いぞ透」

P「よしよし、チンポしゃぶるのも
慣れてきたな」

ちゅぷっ♡

ちゅぷっ♡

ちゅぷっ♡

ちゅぷっ♡

透「…♡」

はッ♥

はッ♥

はッ♥

はッ♥

P「ちゃんと見せてから飲むんだぞ」

透「あー…♡」

透にはアナル舐めも覚えさせた
透のような容姿端麗な女が俺のケツを
舐めてると思うと一種の征服感で満たされる

ちゅるっ♡

ちゅるっ♡

ちゅるっ♡

ちゅるっ♡

ちゅるっ♡

ふーっ

ふーっ

ふーっ

透「気持ち良い、プロデューサー？」

P「ああ、最初の頃と比べると格段に
気持ち良いぞ」

透「ふふ…♡」

ぬちゅっ♡

ぬちゅっ♡

ぬちゅっ♡

ぬちゅっ♡

ぬちゅっ♡

透「っ♡」

P「お返しに透の好きなとこ
たくさん撫でてやるぞ！」

透「そこ本当にダメだからっ♡」

P「イクときはちゃんと言う」

透「イクっ♡」

はぁ♡
はぁ♡
はぁ♡
透「プロデューサー もういいから…挿れて」
くぱぁ♡
P「透の中ヌルヌル温かくて気持ち良いぞ」
ぐぽぽッ…！
透「言わなくていいから…♡」
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
パンッ♡
透「気持ち良い？」
P「うっ 透それ以上すると出るっ！
一旦ストップ！」
透「さっきの分…お返し…♡」

P「もう少しで中に出してたところだぞ！
悪い子にはお仕置きしないとな！」

ズンッ

ズンッ

ズンッ

ふーッ♥

ふーッ♥

透「ダメ、弱いから・・・奥突くのっ♡」

P「知ってるよ だから突いてるんだよ」

パンッ

パンッ

パンッ♡

ふーッ♥

ふーッ♥

透「いじわる・・・♡」

はぁ♥

はぁ♥

はぁ♥

はぁ♥

透「好きでしょ・・・これ」

P「透のスケベになったなぁ」